

『種子島研究』の探索および 電子アーカイブ化とその教育的活用

出口英樹（総合教育機構 高等教育研究開発センター 准教授）、日高優介（「鹿児島島の近現代」教育研究センター 特任助教）

坂井美日（総合教育機構 共通教育センター 准教授）、川端訓代（総合教育機構 共通教育センター 准教授）
伊藤奈賀子（総合教育機構 高等教育研究開発センター 教授）、森裕生（総合教育機構 高等教育研究開発センター 助教〔2023年度まで〕）
研究協力者：鈴木優作（鹿児島大学法文学部附属「鹿児島島の近現代」教育研究センター 特任助教）、児玉仁美（児玉製作所 代表）



プロジェクトの目的

鹿児島を代表する民俗学者である下野敏見（1929年-2022年）は多くの蔵書や民俗資料を遺した。ここではそれらを「下野コレクション」と呼称する。下野コレクションは西之表市の種子島開発総合センター（鉄砲館）に収められているが、十分な整理は行われておらず、ほとんど活用されていない。

また下野は高校教員時代に県内各地に赴任し、生徒とともに郷土の歴史や文化に関して調査・研究を行っていた。鹿児島県立種子島高等学校（鹿児島県立種子島実業高等学校と合併前のいわゆる旧種子島高校）在職中も同校に郷土研究部を作り、その活動の成果は『種子島研究』という冊子（全24号+別巻1号）にまとめられた。しかし、西之表市立図書館にも全号が納められているわけではなく、現在の種子島高校にも完全な形で保管されておらず、散逸しているのが現状である。

以上のような状況を踏まえ、下野の貴重な遺産を継承し、活用していく取り組みが重要であると考えている。そこで、その端緒として『種子島研究』について探索を行い、整理し、電子アーカイブ化した上で、学校等における教材として活用することを目的とする。

『種子島研究』とは

鹿児島県立種子島高等学校（旧）郷土研究部の部誌

昭和38年（1963）11月20日 第1号発行

昭和62年（1987）3月15日 第24号発行

24年間で24冊刊行（別冊1 合併号1含）

種子島についての詳細な研究

→第1級の資料群

→専門家レベル



民俗学者下野敏見と『種子島研究』

1929-2022・知覧町生・1954年、鹿児島大学卒業。鹿児島県内各地高校教諭をへて鹿児島大学教授、鹿児島純心女子大学名誉教授。文学博士（筑波大学）。日本民俗学会々員、日本民具学会々員、日本歌謡学評議員、日本民俗芸能学会評議員。第一回柳田国男賞受賞、第52回南日本文化賞受賞、平成26年本田安次賞特別賞（芸能）受賞



『種子島民俗』

『種子島研究』

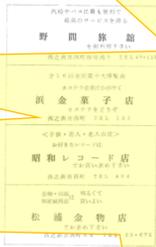
→民俗学者の下野敏見の原点

西日本新聞：2017/4/10 14:51

『種子島研究』のココが凄い！ 1

・調査の質と量

- 第1号 83ページ
- 第2号 57ページ
- 第3号 40ページ
- 第4号 70ページ
- 第5号 59ページ
- 第6号 66ページ



『種子島研究』のココが凄い！ 2

・豪華な執筆陣

- 第1号 城之浜 柳田桃太郎 6
- 城之浜の椿事 後庵弥三郎 7
- 第10号 「蚕舞い」と種子島文化 小野重朗先生 68
- 第24号 『種子島の民具』調査にあたって 部顧問 徳永和喜 1~3

『種子島研究』のココが凄い！ 3

・高校生たちの取り組み



『種子島研究』のココが凄い！ 4

・その後の人生に影響？

- ある男子部員 →黎明館学芸調査係長
- ある女子部員 →現役引退後 地域づくり活動に取り組む
- ある顧問 →西郷南州記念館館長

『種子島研究』を今研究する必要性

- ・変動する社会
- ・地域の衰退 →島を再考（再興）する
- ・地域と高校
- ・地域と大学 →地域と高校と大学
- ・下野敏見氏の死
- ・郷土研究部員の高齢化 →語り継ぎの限界

プロジェクトのスケジュール



プロジェクトチーム



プロジェクトの計画

- ①冊子『種子島研究』の所在を確認する
 - ②その通巻の内容を整理する（総目次の作成）
 - ③可能な限り当時の執筆者を訪ねヒアリング調査を行う
 - ④その内容の電子化を進めアーカイブする
 - ⑤このアーカイブを活用するために必要な法的処理（権利関係）の整理を行う
 - ⑥実際に学校教育にこれを活用する
 - ⑦将来的には種子島の地域活性化に資する活用の提案を行う
- 2023年度は①~③について重点的に実施

プロジェクトにおける主な活動

- 2023年9月6日~7日 西之表市立図書館における『種子島研究』蔵書状況の調査
- 2023年9月15日~17日 鹿児島県立図書館における『種子島研究』蔵書状況の調査
- 2023年12月2日~4日 種子島における『種子島研究』執筆者の聞き取り調査①
- 2023年12月16日~18日 種子島における『種子島研究』執筆者の聞き取り調査②
- 2024年2月3日~5日 種子島における『種子島研究』執筆者の聞き取り調査③
- 2024年3月3日 「鹿児島島の近現代」研究教育センター主催トークイベント「#鹿児島と女性」第3回「鹿児島的女性と教育」（西之表市民会館）において報告

プロジェクトの成果

本年度の最大の成果は『種子島研究』総目次の作成と冊子化（主として上記の①および③に係る成果）である。これは、『種子島研究』の所在（すなわち図書館等における収蔵状況および冊子そのもののコンディションの把握）を踏まえ、後々『種子島研究』を活用する場合のポータルとなり得るものである。『種子島研究』全巻について総目次の作成し、これを冊子化（A4判70頁・80部）し、関係各所への配布も行った。

また、本年度の成果（①~③の全てに関わる内容）として研究ノートの執筆（『鹿児島大学 総合教育機構 紀要 第7号』に掲載）および種子島において実施した「鹿児島島の近現代」教育研究センター主催トークイベント「#鹿児島と女性」第3回「鹿児島的女性と教育」において、トークイベントのテーマと関連させてプロジェクトの成果報告を行った。

謝辞

本プロジェクトの遂行に当たり、以下の方々をはじめ種子島の大変多くの皆様にご協力いただきました。

- 西之表市 鮫島洋二郎様、日高（山下）美保子様、栗島輝文様
- 種子島総合開発センター鉄砲館 沖田純一郎館長、鮫島斉様
- 中種子町立歴史民俗資料館 辺牟木正司様
- 西之表市役所 八板俊輔市長、田上美子様、荒河翼様、大河舞子様
- 種子島高等学校 西中間明弘校長、小脇拓様

心よりお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

鹿児島県立種子島高等学校郷土研究部

『種子島研究』総目次

第1号-第24号

巻頭言

日高優介・出口英樹 編

鹿児島大学法文学部附属
「鹿児島島の近現代」教育研究センター

令和6年3月